

小児の歯肉炎に対する電動ハブラシの効果

○春岡龍男*、西田郁子**、牧 憲司**、
春岡 誠**、久保田孝文**、木村光孝**

* はるおか歯科小児歯科、**九歯大・小児歯

歯科疾患の中でも、歯肉炎はブランクコントロールの状態が、治癒の速さに大きく影響を与える疾患である。

近年、口腔衛生用の器具が多種雑多に出回っている。しかしながら、その企業のアピールする効果についてプロフェッショナルな歯科業務従事者の臨床的な評価が正しく行われているかどうかは疑問である。

最近、特に「電動ハブラシ」の電器メーカーの商品開発、販売はかなりの需要を得ていると思われる。

しかしながら、歯科医院では従来の手用ハブラシが主流であり、その基本的なブラッシングの技術と効果を患者に理解習得させる上では、確実な操作が必要な手用ハブラシを用いることに関しては何ら異論はない。しかし、その「効果」に関してはメーカーの主張する「電動ハブラシ」の効果はユーザーとしての患者にとって大きな関心と呼んでいるのは確かである。

そこで、演者らは実際に歯肉炎をもつ小児に一定期間電動ハブラシを使用させ、手用ハブラシとの比較を行ってみたところ興味ある知見を得た。

あわせて、歯科従事者からみた「電動ハブラシ」の商品としての問題点も考えてみたので報告する。

当医院における個人フッ素洗口法の実態調査

○國武 哲治、柏木伸一郎、岩男 好恵
立川 義博*、中田 稔*、中村 讓治**
小児歯科柏木医院、*九大・歯・小児歯

**福岡予防歯科研究会

フッ素洗口法は齲蝕予防に有効な手段であり、当医院においても、家庭における齲蝕予防法として、1990年3月より実施している。フッ素洗口法を家庭で応用する場合、洗口液の管理やいかに継続させるかといったことが問題点となる。そこで今回、フッ素洗口の実態を把握し、適切な管理法を確立する目的で、アンケート調査を行ったので報告する。

調査対象は、フッ素洗口経験者556名のうち1991年12月から1992年3月までの4ヵ月間に定期診査で来院した160名（男児64名、女児96名）である。なお、アンケート調査は、これらの患児の保護者に対し、アンケート用紙に記入してもらった。

その結果、フッ素洗口中断者は62名（38.7%）であり、思った以上に継続者の割合が少なかった。中断理由としては、面倒であった、忘れていた、洗口液がなくなった、味がわるい、といったものであり、これらの理由を分類すると、患者側、病院側、フッ素洗口液に問題があると考えられる。

アンケート結果より個人フッ素洗口法を実施していくうえで、現在の管理法ではゆきとどかない点がいくつかあることがわかった。今後は、前述の問題点を解決もしくは改善し、個人でもフッ素洗口法が継続し、より多くの人に普及できるような患者管理や患者教育にとりくむつもりである。